

教育・研究等業績一覧

履 歴						
フリガナ	アナミズ ユカリ	所 属	保育学科			
氏 名	穴水 ゆかり	身 分	准教授			
学 歴						
年 月	事 項					
1993年3月	北海道教育大学旭川校教育学部養護教諭養成課程		卒業	学士（教育学）		
2008年3月	北海道大学大学院教育学研究院（博士前期課程）		修了	修士（教育学）		
2021年3月	北海道大学大学院教育学研究院（博士後期課程）		単位取得退学			
職 歴						
年 月	事 項					
1993年4月	北海道 上川北部農業改良普及所 改良普及員（生活）					
1994年4月	美深町立恩根内小学校 養護教諭					
1995年4月	北海道えりも高等学校 養護教諭					
2001年4月	北海道札幌平岡高等学校 養護教諭					
2011年4月	北海道平取高等学校 養護教諭					
2016年4月	北海道北広島高等学校 養護教諭					
2018年4月	釧路短期大学 幼児教育学科 専任講師					
2021年10月	拓殖大学北海道短期大学 保育学科 准教授 現在に至る					
教 育 業 績						
1 担当授業科目（2024年度）						
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考	
保育と教育の心理学	303 教室	前期	月	2		
保育実習指導Ⅲ	302 教室	前期	月	1	担当者複数（8コマ担当）	
心理学	303 教室	前期	火	4		
領域人間関係	201 教室	前期	木	5		
子ども家庭支援の心理学	302 教室	前期	木	3		
SDGs 基礎	101 教室	前期	月	3	担当者複数（1コマ担当）	
保育内容Ⅱ（人間関係）	303 教室	後期	月	2		
総合芸術	乳幼児保健実習室	後期	月・金	5	担当者複数（30コマ担当）	
日本酒学	101 教室	後期	火	3	担当者複数（1コマ担当）	
<通年>						
保育実践演習	102	通年	月／火	4／4		
キャリアスキル	101 教室／パソコン室他	通年	火／月	3／3	担当者複数（19コマ担当）	
保育実習指導Ⅰ（1年対象）	201 教室／302 教室	通年	金・火	3／3	担当者複数（18コマ担当）	
保育実習指導Ⅰ（2年対象）	201 教室／101 教室	通年	金	4	担当者複数（19コマ担当）	
保育実習ⅠⅡⅢ		通年		実習期間	学科専任教員全員（主担当：福祉施設）	
教育実習<実習>		通年		実習期間	学科専任教員全員	

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式: 900字以内)</p>	<p>(1)現行授業の目標と教育効果 保育学科の授業については、学生が「発達の(心理学的)理解」と「実践的理解」の2つの視点を軸として子どもを理解することを目標に授業を組み立てた。「発達の理解」とは子どもの育ちの見通しや行動の意味を理解すること、「実践的理解」とは、子どもの想い、人間関係、遊びの興味関心などへの理解である。授業では、講義科目にも事例やテーマをもとにした演習を取り入れた。演習では主に、①自分の考えをまとめてワークシートに記入、②小グループで討論、③教員が全体シェアリングを行いながら解説、という手法をとっている。その目的は、①授業の内容やポイントの明確化、②現場実践への意欲、③思考力、分析力、理解度やコミュニケーション能力の向上、である。 基礎科目である地域振興ビジネスコース「心理学」及び農学ビジネスコースの「日本酒学」「SDGs 基礎」では、①専門科目以外分野や領域に興味関心をもつこと、②授業で学んだことを自分の生活や人生に関連づけて考え日常生活に適用できる、ことを目的に授業を組み立てた。</p> <p>(2)自己評価 学生による授業評価を見たところ、「自分で考えた後に、他の学生と討論する」意義に気づいている学生もおり、ある程度の教育効果はあったと感じている。「子どもが好き」などだけでは保育者として成り立たず、子どもの発達に対する理解がなければ実践の場では難しいことも、学生のおそらく全員が理解できている。しかし、考えることに慣れていない学生にとっては、ともすると討論の時間が私語や沈黙の時間になりがちで、答えを与えられるのを待っている状態になりやすい。今後の課題としては、「子どもの発達の・実践的理解ができれば、保育はもっと楽しい」ことをモチベーションに、学ぶ姿勢をつくることだが、視覚教材を利用するなどの工夫により、具体的な子どもの姿へのイメージをもたせながら授業を進めていく必要があると考えている。</p>
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式: 900字以内)</p>	<p>(1)学生による授業評価 講義形式の授業では、パワーポイント(ppt)による説明、重点を穴埋めにした配布プリント、写真や動画、図表などの視覚に訴えた教材は集中力を保つ上で効果的だったようだ。 保育学科の演習授業は、説明・演習・解説を繰り返して、知識を身につけ、問題解決への道筋を個々と集団で考えるという方式で進めた。授業評価によれば、よかった点は昨年同様で、スライドや説明のわかりやすさ、他者との意見交流と教員のコメントにより理解を深めた、子どもの年齢や障害による特性を理解した上での保育への学び、現場実践に結びつく学び、などである。 改善を求める点については、学生からの指摘は特になかったが、演習のない授業ではともすれば説明に傾き、学生とのコミュニケーションが薄くなりがちであることに気をつけていきたい。 ビジネス学科の「心理学」については、ほぼ講義形式で授業を進めた。授業評価では、一般教養の心理学では内容が多岐にわたるため、学生にとっては散漫に感じられたのではと考えていたが、さまざまな心理について学ぶことができるとてもおもしろかったという声があった。また、本授業の目的は心理学を生活に活かすことだったが、「実生活の話題とリンクしているところがよかった」とのコメントがあった。農学ビジネスコースの「日本酒学」「SDGs」については特段に注目すべき声はなかったが、「実生活に役立てたい」という感想は散見された。</p> <p>(2)教育改善への取り組み 今後の改善に向けた取り組みとしては、①ゆっくりとした聞き取りやすい話し方、特に「間」をもつことを心がける、②講義形式の授業においても、学生と対話をする時間をつくる、ことがあげられる。②については、学生数が少なくなったため、改善しやすいと考えている。 今年度は特に対応を必要とされなかったが、本学では例年、読字や書字に困難がみられる学生がみられる。保育学科の学生にはデータを渡してパソコンで打ち込み記録をさせることや、試験問題の拡大コピーなど、学生や状況に合わせて配慮してきた。今後も学習に関して特別な配慮を必要とする学生への対応を、教員間で連携しながら、より充実させていきたい。</p>
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式: 300字以内)</p>	<p>各授業では複数のテキストを基に作成したプリントを用意した。説明は、パワーポイントで作成したスライドを中心として行った。視覚優位者と聴覚優位者の双方にとって参加しやすいように、基本的にはプリントとスライドの内容は同じものとした。この他、理解を深めるための補足資料として、スライドでは図表やイラスト、映像等を提示した。プリントは授業のポイントを把握するために適宜、穴埋めにして学生に記入させた。 また、演習では必ず自分の考えをプリントに記述し、その後、他学生と議論をして多角的な視点とともに考えを深め、そこで得た新たな見方や考え、教員の解説をさらにプリントに書き込むよう指導した。</p>
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要 10 件以内)</p>	<p>2018 年～2021 年 釧路短期大学 学生相談員</p>
<p>6 その他</p> <p>(主要 5 件以内)</p>	<p>2021 年 教員免許状更新講習第Ⅱ期対面講習(北海道教育大学釧路校会場)</p> <p>2021 年 教員免許状更新講習第Ⅱ期対面講習(帯広商工会議所会場)</p> <p>2021 年 駆け込みシェルター研修会(釧路)</p> <p>2023 年 空知管内高等学校副校長・教頭会研修会</p> <p>2024 年 留萌管内高等学校養護教諭研究会・研修会</p>

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式:350字以内)	<p>研究分野:「児童生徒の問題行動」</p> <p>これまで児童生徒の「自分を傷つける行為(自傷行為)」について、発達差・性差に視点を置いて研究してきた。博士論文では、児童生徒の自傷行為をテーマとして、(1)発達差・性差という視点から自傷行為の実態と関連要因、及び(2)児童生徒の自傷行為に対する養護教諭の認識と対応について調査・検討し、それらを踏まえて学校における望ましい自傷対応について議論した。個人の研究としては、今後も児童生徒の自傷行為について発見的見地による研究を続けていく見通しである。</p> <p>共同研究としては、昨年度から、他学の教員や福祉施設職員とともに、学生の「死生観」をテーマに調査研究を行った。今後はひきこもりのひとの「死生観」について、ひきこもりサポートセンターと協力して調査研究する見通しである。</p>			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式:350字以内)	<p>(1)「児童生徒の自傷行為の発生要因と保健室を中心とした学校対応」 今後は未公開研究を学術誌等に投稿し、文献化をする。また、研究対象を通常学級の児童生徒から特別支援学級の児童生徒、保健室から一般教師や管理職を含む学校全体のものとするよう考えている。</p> <p>(2)学生の「死生観」について 医療従事者となる看護学生や教員養成校、保育者養成校の学生の死生観について、その実態と関連要因について調査・検討した。まず、「自傷行為と死生観等の関連要因」については研究ノートとして発表予定である(印刷中)。また、学生がもつ死生観の特徴を専攻別で比較し、その特徴について検討、投稿の予定である。</p> <p>(3)ひきこもりのひとの「死生観」について ひきこもりのひとの「死生観」に土江、ひきこもりサポートセンターと協力して調査研究するため、現在準備中である。</p>			
3 研究助成等 (主要5件程度)	<p>(1)文部科学省科学研究費 平成23年度科学研究費補助金(奨励研究)日本学術振興会</p> <p>(2)学内 令和元年度釧路短期大学特別研究費</p> <p>(3)学外</p>			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	<p>資格:2003年9月 養護教諭専修免許状(平14養専修第0010号・北海道教育委員会)</p> <p>資格:2021年2月 公認心理師</p>			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行又は発表雑誌等又は発表学会等の名称	要約
(著書)				
思春期の発達とこどもの問題	共同執筆	2016年4月	札幌子ども・若者白書	思春期の思考の発達が、自己肯定感や自尊心の低下にどのように影響するのかについて述べた。さらに思春期の発達に関連して自傷・自殺等の内的攻撃性による問題行動について指摘し、教育のあり方について提言した。 (加藤弘通・穴水ゆかり)
子どもの成長を支える発達教育相談	共著	2017年10月	北樹出版,	自傷対応において重要なのは自傷をやめさせることではなく、本人が抱えている問題や困難の軽減であると説明した。最後に、本人や周囲の子どもたちが大人に援助を求められる関係性を日頃から築いておく必要があると述べた。 (コラム「自傷行為とその対応」を担当)
問いから始まる心理学第2巻 教育問題の心理学 何のための研究か?	共著	2022年8月	福村出版, 126-129,131-136,141(2-25行目) (総ページ11)	編著:加藤弘通・岡田有司・金子泰之 担当:「第5章 虐待・自傷・親子というつながりの問い直し」 家族とは、親子関係のつながりの「切れなさ」とはどのようなことか、という問いについて、「自傷」と「虐待」という現象を軸に考察した。 (穴水ゆかり・溝岡優)
(学術論文)				
自傷行為の視点から見る高校生の心性(第1報)(査読付)	共著	2010年6月	思春期青年期精神医学20(1)	高校生を対象に質問紙調査を行い、自己切傷経験者の心性の検討を試みた。その結果、自傷経験は生徒の9.5%で女子では男子の2.6倍みられた。自傷生徒の依存形成の生じやすさや精神的な脆弱性に対する広い理解と、支援方法の開発を急ぐ必要があると考察した。 (穴水ゆかり・田中康雄)

自傷行為の視点から見る高校生の心性 (第2報) (査読付)	共著	2010年6月	思春期青年期精神医学 20(1)	高校生を対象に質問紙調査を行い、自傷経験者の心性の検討を試みた。その結果、重篤化、習慣化、嗜癖化した自傷行為と解離傾向との密接な関係等が示された。また、集団生活や家族・家庭環境に充実感をもつ自傷経験者からは、対他的過剰適応傾向の強さが示唆された。 (穴水ゆかり・田中康雄)
自傷行為の視点から見る非行化した少年の心性・自傷行為の視点から見る高校生の心性・第3報 (査読付)	共著	2011年6月	思春期青年期精神医学 21(1)	高校生と少年院在院者の質問紙調査データを比較検討した。その結果、高校生と少年では自傷へ至る経過や、解離にかかわる特性が異なる可能性が考えられた。結果をふまえ、安岡(2008)による「手首自傷の症状機制」モデルに検討を加えた。 (穴水ゆかり・田中康雄)
教育現場における自傷児童生徒支援の課題について (文献レビュー) (査読付)	共著	2017年12月	北海道大学大学院教育学研究紀要 129	学校現場の自傷支援において検討すべき課題を示した。自傷行為の定義や実態は研究により大きな幅があること、このために見逃される自傷がある可能性があること、教員は自傷の背景にある問題に気づき対応することが重要であること、今後は教員への実態調査や、発達差に留意した研究が必要であること等を指摘した。(穴水ゆかり・加藤弘通)
高校生における自傷行為とその背景要因の検討 (学校環境、家庭環境、過剰適応傾向の観点から) (査読無)	単著	2021年3月	釧路短期大学紀要 48	高校生の自傷経験とその方法に主眼を置き、背景要因について検討した。自傷念慮及び複数回の自傷経験には親・保護者との関係がネガティブに影響した。女子は自己切傷、男子はより周囲から発見されにくい「隠る」自傷のリスクが高かった。
小学生および中学生の自傷念慮・自傷行為経験の実態：性差・発達差に注目して (査読付)	共著	2023年11月	臨床心理学 138	小学4年生～中学生の児童生徒を対象に質問紙調査を行い、自傷念慮及び自傷経験率の性差と経験率の変化について検討を試みた。自傷行為が増加する時期など自傷の様相には男女それぞれで異なる変化を示す可能性があることが示された。 (穴水ゆかり・太田正義・加藤弘通)
児童生徒の自傷行為の発生要因と保健室を中心とした学校対応 (学位論文)	単著	2024年3月	北海道大学 (未公表)	発達差・性差という視点から自傷行為の実態と関連要因、及び児童生徒の自傷行為に対する養護教諭の認識と対応について調査・検討し、それらを踏まえて学校における望ましい自傷対応について議論した。
(その他・自由投稿)				
1 学校における児童生徒の自傷対応―主に児童生徒への実態調査をもとに考える	単著	2024年7月	北海道の臨床教育学第13号, 52-56	学校における自傷児童生徒対応に際しての留意点を述べた。まず、自傷行為の定義とその問題点を指摘した。次に児童生徒の自傷経験について、男女別・学年別の推移などの実態、自傷行為に関連する背景や関連要因について論じた。最後に、担任による学級経営が、児童生徒の問題行動に影響していること、一般教師や養護教諭は自傷行為ばかりでなくその背後にある問題への対応が求められると指摘した、
(翻訳)				
「発達心理学再入門ブレイクスルーを生んだ14の研究」 (監訳：加藤弘通・川田学・伊藤崇 担当：『12 攻撃性：バンデューラのボボ人形研究の再検討』)	共訳 (分担)	2017年3月	新曜社, Lansford JE.: Aggression: Revisiting Bandura's Bobo Dolls Studies. In Slater AM., & Quinn PC. (Eds.) Developmental Psychology revisiting the classic studies, SAGE, 176-190, 2012	監訳：加藤弘通・川田学・伊藤崇 担当：「12 攻撃性：バンデューラのボボ人形研究の再検討」 最初にバンデューラの「ボボ人形研究」の概要を説明し、本研究が攻撃性の発達研究に与えた影響の他、本研究の倫理的問題や妥当性等に対してのちに生じた疑問や批判についても議論した。最後に研究の意義について述べた。
(学会発表・展示) 学生の自傷行為、「消えたい」体験、希死念慮とその関連要因についての予備的調査―死生観、幸福感、死別経験との関連	共同	2024年9月	日本教育心理学会第66回総会 (アクトシティ浜松)	自殺関連行動とその関連要因について検討することを目的として、学生を対象に質問紙調査を行った。その結果、いずれの自殺関連行動においても最も関連がみられたのは、身近な人との死別経験だった。 (穴水ゆかり・大野志保・永津利衣・續橋淳子)

看護師・保育者・教員養成課程の学生にみられる死生観と幸福感—「死の準備教育」プログラム作成に向けた予備的調査	共同	2024年9月	日本教育心理学会第66回総会（アクトシティ浜松）	保育者・教員・看護師養成課程の学生を対象に質問紙調査を行い、死生観と幸福感の関連について検討した。保育者養成課程の学生では命と死の尊厳に気付くこと、教員養成課程の学生では、死に対する客観的な認識を形成すること必要と考えられた。 (永津利衣・大野志保・續橋淳子・穴水ゆかり)	
研究業績（過去3カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
1	2	2	1	なし	あり
学内運営業績					
1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	2021年度、2023年度～今に至る		図書委員会		
	2021年度～2022年度		学生・地域国際交流委員会		
	2022年度～2022年度		入試委員会		
	2022年度～2022年度		就職委員会		
	2022年度～現在に至る		紀要編纂委員会		
	2022年度～現在に至る		衛生委員会		
学外活動業績					
1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通しての活動 (主要10件程度)	2019年度～2020年度		北海道教育大学附属釧路小学校 スクールカウンセラー		
	2019年度～2021年度		釧路市立高等看護学院 スクールカウンセラー		
	2019年度～2021年度		北海道霧多布高等学校 スクールカウンセラー		
	2020年度		釧路まりも学園 心理判定員		
	2020年度		釧路子ども読書活動推進計画策定委員会委員		
	2022年12月～現在に至る		北海道教育カウンセラー協会事務局・子育て支援専門部会副部長		
	2024年度～現在に至る		北海道羽幌高等学校 スクールカウンセラー		
	2024年度～現在に至る		北海道スクールカウンセラー活用事業スーパーバイザー		
2 学会・学術団体等の活動 (主要10件程度)	日本学校保健学会会員				
	日本思春期学会会員				
	日本思春期青年期精神医学会会員				
	日本学校保健学会会員				
	日本思春期学会会員				
	日本教育心理学会				
	心理科学研究会員				